

平成 26 年 度

旭丘中 学校便り

第 1 号

練馬区立旭丘中学校：発行 4月

新年度をむかえて

校長 山 谷 安 雄

始業式・入学式が終了して、平成26年度も順調にスタートしました。教職員の異動は、裏面を参考にしてください。新入生（AB組46名D組6名）を迎え、学校全体に何となく活気が戻った気がします。入学式では、新入生に対して2つと保護者に対して1つを中心に次のような話をしました。（概要）

1『挑戦してほしい。』日本では、9割以上の成功確率のないものには挑戦しないという人が世界のどの国の子供より多いそうです。日本人は優秀であるが、チャレンジすることが苦手であると言われていて、失敗を恐れて、自分から何もやろうとしない子供が多くなっています。挑戦しないので、失敗もしません。失敗から学ぶという貴重な経験もできないことになります。挑戦するとは、成功のための準備をすることです。勝負は時の運だと言って、ぶっつけ本番では、良い結果は望めません。スポーツの世界でアスリートと呼ばれる人たちが、再起不能と言われるような大きな怪我をしても、再び一流の選手に戻れることがあります。これは、努力の仕方を知っているからだと言われていて、中学校に在学中に、部活動や委員会活動に挑戦してください。そして、挑戦することとはどんなことか、2年生や3年生の様子を見て、学んでください。

2『「自分がすき。自分には良いところがある」と言うような自尊感情をもってほしい。』実力があり、自分で力を出せばできるのに自分の力が信じられないと、自分で進んで手を挙げてやる事ができません。これは、実力が無いのと同じになってしまいます。自信がもてることは、一番でなくて良いはずですが。周りと比較する必要はありません。52名の生徒一人一人には、必ず良いところがあります。それを自分と先生と一緒に探すことも大事だと思います。それができるのが旭丘中学校です。ライバルは敵ではないという言葉があります。敵は打ち負かすものですが、ライバルは競い合って高め合うものです。旭丘中学校の一人一人がライバルとして、お互いに高め合ってもらいたいと思います。そして、中学校3年間を精一杯生活してほしいと思います。きっと、3年が過ぎたときには想像もつかないほど成長しています。旭丘中学校には、誇れるものがたくさんあります。3大行事の運動会、文化発表会、合唱コンクールです。そして、何よりも、普段の授業を一日一日当たり前に受けることが中学校では大切です。これが、自信につながります。

3 生徒達の成長のために何が必要であるか、目先のことにとらわれがちですが、長い人生をたくましく生きるためには、回り道も必要です。最短コースを行くことが必ずしも生徒達のためになるとはかぎりません。長い目で見ていきましょう。

